



西新潟中央病院

NST NEWS 第59号

NST: Nutrition Support Team

発行日：2019年3月5日

担当：NST委員会

編集：栄養管理室

連絡先：内線1304

NST委員会からのお知らせ ～JSPEN2019 参加報告～

2月14日・15日に東京品川で第34回日本静脈経腸栄養学会学術集会（JSPEN2019）が開催され、薬剤部村上さん、小金澤さん、栄養士曾我が参加しました。

日本静脈経腸学会は会員数20000人を超える臨床栄養学における世界最大規模の学会で、今回のテーマは「栄養治療のArt and Science—新たなるbreakthroughを目指して—」でした。様々な研究発表や討論が行われた中で、特に血清亜鉛値の測定についての検討や亜鉛の補給方法についての発表が印象に残りましたので一部報告をさせていただきます。



周術期における血清亜鉛値の検討では、術後のストレスによって血清亜鉛は体組織に吸収されるため一時的に低下しますが約1週間で改善がみられます。そのため、術後に亜鉛製剤や亜鉛含有栄養補助食品を投与するよりも術前から投与し体内に亜鉛を補給しておくことが重要であるとのことでした。



また、入院高齢者では食欲不振、スキン-テアや褥瘡がみられ、低アルブミン値であることがほとんどですが、低アルブミン値と亜鉛欠乏は正の相関が認められたとの発表があり、このような場合には亜鉛製剤の投与や亜鉛含有栄養補助食品の付加が重要であるとのことでした。

当院でも、NST介入の際に亜鉛欠乏？と思われる患者さんに遭遇する機会が増えています。その際、亜鉛製剤の処方や亜鉛含有栄養補助食品の付加を提案していますが、まずは血清亜鉛値を測定し患者さんの状態を把握した上で投与量を設定すること。ポラプレジンクや亜鉛含有栄養補助食品は血清亜鉛値が上昇するのに時間がかかる為、しっかりと経過を確認すること。また、亜鉛の過剰摂取による血清銅の吸収阻害についても把握しておく必要があると再認識できました。

(文責：栄養管理室 曾我)

《第34回日本静脈経腸栄養学会に参加して》



2月14、15日に東京の高輪で開催された第34回日本静脈経腸栄養学会に「フェンタニル貼付剤使用患者におけるアルブミン値と薬効・有害事象の関係」という題でポスター発表をいたしました。学会は日本中の施設から多くの職種が参加し、様々な視点から栄養に関する研究成果を発表されており、非常に良い刺激を受けました。病気は薬を使えば治る、と考えがちですが、病気に負けない身体をつくるには薬以上に栄養が必要です。病気の治療中であれば必要な栄養を摂ることで治療の助けにもなります。「食べる」ことは普段何気なく行っていますが、生きていくうえでいかに大切なことが再確認できた学会でした。

(文責：薬剤部 小金澤)

《お知らせ》 4月から新たな栄養補助食品が採用されます。**アイソカル・ジェリーHC（黒糖味）、リハたいむゼリー（はちみつレモン味）、ごはんに合うソース たまご風味**です。商品の詳細、運用方法については後日配信します。食欲不振があり食事摂取がなかなか進まない患者さんがいましたら栄養管理室までご相談下さい。

(栄養管理室 曾我 内線1304)

